

安比高原のシバ草原を馬で再生していくために

平成27年地域政策研究センター(地域提案型・後期) 採択課題

課題名：安比高原シバ草原の自然再生に関する研究

研究代表者：総合政策学部 准教授 島田直明

課題提案者：安比高原ふるさと倶楽部 斎藤文明

研究メンバー：渋谷晃太郎、金子与止男（総合政策学部）

技術キーワード：安比高原、シバ草原、自然再生、放牧

▼研究の背景・目標

八幡平市安比高原には、全国的に希少となっているシバ草原が残存しており、希少な生物も確認された。今後、この希少なシバ草原の自然再生を目指して、生態系および人の利用・管理の二つの視点から調査を行い、管理・利用方法について検討を行った。

▼調査方法

1) 生態系調査

①植生調査、②現存植生図の作成、③草原面積の変遷調査、④鳥類調査、⑤管理状況に関するヒアリング調査

2) 人の利用・管理

①管理の履歴等の文献調査、②歩道等の実地踏査、③自然散策マップの作成

▼結果・考察

1. 植生調査からは、それぞれの管理や植生タイプごとに異なる特有な植物が成立していることがわかった。
2. 現存植生図(図1)からは、人の管理や利用によって植生分布が分かれていることが理解できた。
3. 安比牧野の植物を多く保全していくためには、それぞれの植生タイプを残していくことが必要であり、現在行われている放牧や草刈りといった管理方法が効果的である可能性が示唆された。
4. 鳥類については、安比高原の地形と植生を反映して、草原・林縁部を好む鳥だけではなく、森林性の鳥やカモ類も生息していることがわかった。
5. 安比高原の草原は、1000年に亘り継続してきた草原であり、馬による管理が始まった。
6. 自然散策マップを作成した(図2)。



写真 安比牧野の様子 左上から順に放牧される馬たち、レンゲツツシ、ヤナギラン、ノハナショウブ、アズマギク

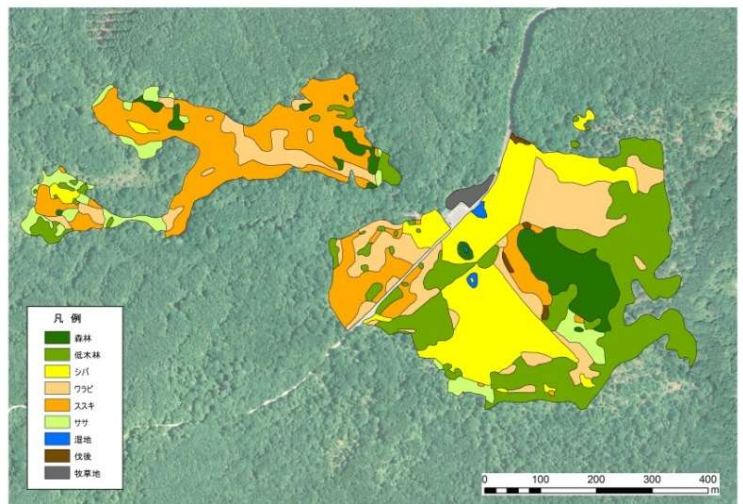


図1 安比牧野の現存植生図



図2 自然散策マップ

▼おわりに

①現在の管理方法を継続しながら、植生図作成や植生のモニタリングを行い、管理の効果を評価・検証し、よりよい管理方法・管理計画を立て、次の管理を実施していくことが必要である。

②安比高原の草原は、1000年の歴史がある。これを将来に引き継いでいくためには、馬の確保、担い手の確保、管理団体の強化など様々な課題があり、今後さらに解決策を検討する必要がある。